

三陸ふじのくに絆ハウスの設置 Installation development of "Sanriku Fuji-no-kuni Kizuna House"

八木 宏晃¹, 小野田 全宏², 名倉 諒³, 滝田 和明⁴
Hiroaki YAGI¹, Masahiro ONODA², Ryo NAGURA³, Kazuaki TAKIDA⁴

¹岩手県沿岸広域振興局土木部河川港湾課 (静岡県から派遣)

Department of Prefectural Land Development Coastal Region Development Bureau, Iwate Prefecture Government
(On leave from Shizuoka Prefecture Government)

²NPO法人静岡県ボランティア協会

Nonprofit Organization Shizuoka Volunteer Association

³NPO法人静岡県ボランティア協会岩手事務所

Nonprofit Organization Shizuoka Volunteer Association, Iwate Office

⁴静岡県危機管理部危機情報課

Emergency Management Department, Emergency Management Information Division, Shizuoka Prefecture Government

After the Great East Japan Earthquake of 2011, Shizuoka Prefecture Volunteer Association and Shizuoka Prefecture established the "Tono Magokoro Ryou" where was a disaster volunteer support center in Tono City. They have supported to the affected areas for 2 years from Tono City. And the facilities were finished the important roles. Then these facilities were removed to Kamaishi City and Otsuchi Town, opened in the 25th May 2013 as a "Sanriku Fuji-no-kuni Kizunas House ". We report the case.

Keywords : Sanriku Fuji-no-kuni Kizuna house , disaster volunteer support center , Tohoku earthquake

1. はじめに

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震発生から1ヶ月足らずの2011年4月8日に静岡県及び静岡県ボランティア協会では、岩手県被災地の復旧・復興への支援及びボランティアの拠点として岩手県遠野市に「遠野災害ボランティア支援センター“遠野まごころ寮”」を開設し、甚大な被害を受けた岩手県山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市などの支援活動に取り組んできた。これまでに同センターを利用した派遣職員及びボランティアは3,500人にもものぼり、大いに活用されてきたが、震災から2年経過し、2013年3月にその役割を終え、惜しまれつつ閉所した。

しかしながら、被災地の復興には年月がかかることが予想されるため、ボランティアによる支援活動を継続する必要があると考え、「遠野災害ボランティア支援センター“遠野まごころ寮”」の管理棟・宿泊棟をそれぞれ大槌町と釜石市に移設し、復興への支援活動の新たな拠点とすることとした。

2013年5月25日に「三陸ふじのくに絆ハウス大槌・鵜住居」を開所し、被災地地域住民の様々な活動拠点として新たにスタートした。その概要について報告する。

2. 「三陸ふじのくに絆ハウス」について

(1) 「三陸ふじのくに絆ハウス」の概要

(a) 三陸ふじのくに絆ハウス大槌

設置場所は、岩手県上閉伊郡大槌町小槌第21地割地内大槌町小槌第7仮設隣接地(図1)。51m²プレハブ造2階建てで、1階には事務所・トイレ、2階は集会所となっている。(図2)



図1 三陸ふじのくに絆ハウス大槌の位置図

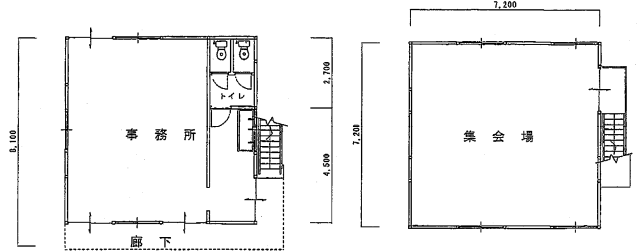


図2 三陸ふじのくに絆ハウス大槌の見取図

(b) 三陸ふじのくに絆ハウス鵜住居

設置場所は、岩手県釜石市鵜住居町15-17-7鵜住居地区防災センター隣接地(図3)。2棟あり、1棟は103m²プレハブ造2階建てで、1階には合同事務所・調理場及び食堂・トイレ、2階は集会所、もう1棟は25m²プレハブ造1階建てで、倉庫・ユニットバスとなっている。(図4)

また、設置場所は2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震による津波の浸水エリアであるが、釜石市鵜住居

地区の地域住民のなりわい再生の拠点として活用したいとの地元住民からの強い要望により当該箇所に設置された。今後、区画整理事業の嵩上げ工事が想定されており、期間限定の仮施設として設置許可がされている。さらに、当該施設利用に際しては、利用者に対して津波避難場所の周知を徹底している。

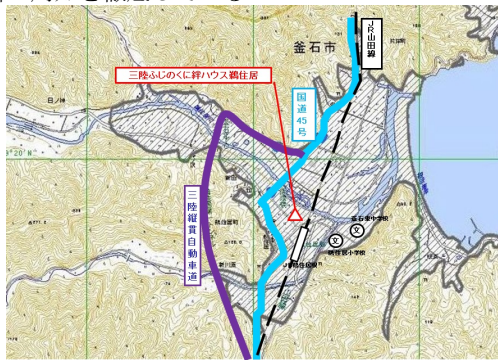


図3 三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居の位置図

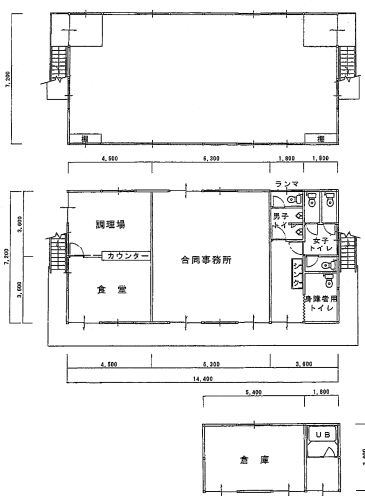


図4 三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居の見取図

(2) 「三陸ふじのくに絆ハウス」の利用目的

利用目的は、大きく2点あり、1点目が「岩手県被災地支援を通じて生まれた静岡県（県民）と被災地の住民の絆を象徴し、今後の復興に向けた交流拠点として利用」と、2点目は「静岡県からのボランティア等の支援活動拠点として利用とともに、普段は岩手県被災地住民の集会場としての利用」である。

また、上記の大きな利用目的を基に以下の5つの場として利用されていくことも念頭に置いている。

- ①震災前の生活を取り戻していくための「集いの場」
- ②大津波から避難した人たちの教訓を体験的に学ぶ「防災教育の場」
- ③大槌・鶴住居、そして静岡県の人たちが何時までもつながり「人と人が交流する場」
- ④生活・福祉・医療・法律等の専門的な分野の方々と連携していく「よろず相談の場」
- ⑤被災地の大槌や釜石のことを忘れない復興の絆を大切にしていける「絆づくりの場」

3. 「三陸ふじのくに絆ハウス」の利用状況

(1) 「防災教育の場」としての利用状況の一例

静岡県内の高校生を対象に静岡県教育委員会が2013年

8月20日から23日に主催した「静岡県高校生被災地ボランティア」が被災地岩手県を訪れた。21日に「三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居」において、静岡県から派遣されている職員から担当する災害復旧業務の概要及び釜石市の被害状況の説明を同施設において聞き、「釜石の奇跡」で知られる鶴住居小学校と釜石東中学校の児童・生徒らが避難したルートを再確認するウォークラリーを行った。

また、22日は「三陸ふじのくに絆ハウス大槌」において静岡県ボランティア協会岩手事務所の職員から絆ハウスの利用状況及び仮設団地住民とのコミュニケーション方法の講義を受け、隣接する大槌町小槌第7仮設団地の被災者宅を訪問し、富士山グッズを配布するボランティア活動を行った。（写真1、2）



写真1 絆ハウス鶴住居前での集合写真

写真2 絆ハウス大槌近接仮設団地訪問状況

(2) 「人と人が交流する場」としての利用状況の一例

「三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居」1階の調理場及び食堂スペースを活用し、NPO法人かまいしリンクが、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの釜石誘致応援のために2013年10月1日から「ラグビーカフェ・クレスト鶴住居」がオープンした。¹⁾ 今後は、被災地内外から多くの方がカフェを訪れ、多くの方々が交流することが期待される。（写真3、4）



写真3 絆ハウス鶴住居カフェ外観

写真4 絆ハウス鶴住居カフェ内観

4. おわりに

今回は「三陸ふじのくに絆ハウス」の設置経緯と現在の利用状況の一例を紹介したが、今後は「三陸ふじのくに」の名称にあるように被災地岩手県と静岡県の交流人口を増やすための施設利用を検討していくとともに、静岡県はじめその他の地域からもより多くの方が訪れていただくことを期待する。

参考文献

- 1) 鶴住居地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会事務局：鶴住居復興新聞第8号，pp. 15-16, 2013. 9. 18.

謝辞

本研究を実施するにあたり、大槌町及び釜石市の関係者の皆様方に御協力をいただきました。ここに記して、深く感謝申し上げます。